



では、感染が症状の主役でなかつたと考えられ、VSM の効果は不明であるが、少くとも有効とはいえない。

第6例 56才女

病名：気管支肺炎

7日前より流感症状で喀痰、咳嗽、発熱あり。右下肺野に気管支肺炎を認め、感冒症候群に合併した気管支肺炎と診断し、VSM 1日0.5g 5日間筋注したが症状の急速な改善なく、無効と判断した。副作用なし。

第7例 58才女

病名：骨髄炎、糖尿病

糖尿病による足部壊死より骨髄炎となつたもので、合成ペニシリンを連用したが無効となり、膿より *Escherichia coli* と *Staphylococcus epidermidis* を検出した。*Escherichia coli* の感受性は SM(-), KM(+). VSM を1日2g 合計20日間投与したが無効であつた。副作用はなかつた。

### 3. 結 語

膀胱炎、咽頭炎(薬物中毒)1例、腎盂腎炎3例、慢性気管支炎1例、気管支肺炎1例、骨髄炎(糖尿病)1例の合計7例に VSM を使用した。VSM は1日0.5g~2g 筋注で総量2g~40gであつた。副作用は認めなかつた。腎盂腎炎3例全例と薬物中毒の合併した膀胱炎、咽頭炎の1例に有効であつた。腎盂腎炎の3例の原因菌は KM に感受性の大腸菌であつた。慢性気管支炎の菌も KM にのみ感受性の大腸菌であつたが効果判定不明であつた。

### 文 献

1. 大久保侃, 藤本安男, 岡本緩子, 吳京修: Vistamycin の基礎的臨床的研究。第18回日本化学療法学会総会にて発表
2. Vistamycin に関するシンポジウム(司会: 藤本安男)。第18回日本化学療法学会西日本支部総会(昭和45年11月)

## CLINICAL EVALUATION OF VISTAMYCIN

HIROSHI ŌKUBO, YASUO FUJIMOTO and YURUKO OKAMOTO

First Department of Internal Medicine, Kansai Medical School, Osaka, Japan

We have treated with Vistamycin seven cases (3 cases of pyelonephritis, 1 case of cystitis and pharyngitis with drug intoxication, 1 case of chronic bronchitis, 1 case of bronchopneumonia, and 1 case of osteomyelitis with diabetes mellitus). Vistamycin was effective in four cases, and no side-effect was observed.